特別
へ13
4152
6上

御入部伽羅女巻之六　目録

名所は現女あつまつぎ車

廿一　粒色一番　龍淵の新町

一　[illegible]

一　[illegible]

一　[illegible]

百業くらべ弥栄

廿二　又十三夜一番　旅竜屋

一　[illegible]

一　[illegible]

一　[illegible]

56-4104

御入部御羅女巻之夫

(廿一)

名所は加賀の扇車

すべて加賀の梅園といふ天満宮あれあげ海きう
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

付紙後ろ[illegible]あり[illegible]ぐ[illegible]流いて[illegible]すく、廉売の角八十七人の[illegible]
社[illegible]と[illegible]後[illegible]くくくんぞりとりはくく、新[illegible]第と[illegible]
後くくくく

扇初ぎく　同　かーゝ米
同　のうぜ　同　ひしぎ
同　金ぎく　同　たつま
同　紫式　同　ぼうし
同　中ろ　同　志ぶ川
同　あつまハ　同　市ひし
同　お佐　同　ねづま
同　ちろく　同　岡ぶま
同　ゆかぎく　同　ちせ川
同丁　ちろく　ちぶ　ちぶ　ちぶ　ちぶ　ちぶ
同丁　浜ちろ　ちつ　ちつ　ちつ

[illegible]
[illegible]
同 [illegible]
同 [illegible]
同 [illegible]
同 [illegible]

御入部六

御入部六

同下ヒこや城ヶ嶽
つかごしは
そこより新町迄
あめ高浮き来内
疱瘡薬　医みくろせ
同　下畑　同　くろの
同　ふるせ　同　こづま
同　かくやま　同　みかわ
同　ヒハぎ　同　まづま
同　ヒヒ乃　同　大いそ
同　みくろ　同　そせ
同　くろく　同　みかく
同　つま川　同　つまぬき
同　ヒ海　同　大きく

同所ヶ嶽ヒ屋ヶ嶽内
疱すりぐ　医せんよ
同　奥別　高ま寄うけ
同　ゆづ山　ふるづらき
同　松なこ　同　ちきし
同　あすき　同　くるね
同　ふるね　同　ふるヒ
同　ふるくろ　同　なるせ
同　ふるヒ　同　ねづま
同　まつ山
同筋あづや清内
疱清ヶ湯　医いせき
同　をぎの　ふるゆうぶ
同　せやま　同　松ぎく

同筋疱ヶ下畑内
疱みや海　医ちづま
同　大くぶ　同　つかあのく
同　どよ川　同　つまぎ
同　やまく　同　くろく
同　みきぶ　同　ちきく
同　美やま
同　くろき
同筋つちや和名来内
疱かりん　医大くろ
同　ぬち川　きこちが
同　かまき　つかかちぶ
同　大くろ　同　くろ川
同　ひつく　同　ゆんく
同　ヒ　くろく　同　くろ川
同　大城　同　まくろ

同　いこく　同　金ざき
同　八くろ　同　くろせ
同　加ハぎ　同　みくぶ
同筋疱やこ蔵内
疱やしま　医いこぎ
同　あやめ　ふくつぶよ
同　みまくろ　同　ヒやま
同　ゆくあ川　同　つまくろ
同　ぬぎき　同　ちくさ
同　ちくろ
同筋大和屋新屋来内
同　ふるき　ふるくろ山
同　をこくろま　同　みくよ
同　ゆあく　同　やま
同　みくき

同筋山際にて長さ円
園ちゃとせ　戸ばやま
戸ばばば　つるうらく
同筋ごぼう表長さ円
園うめん　つるうらぐま
戸めせ　円　みつるやま
円　さはぐ　円　うらぐ
つるとやま　てこ　いくよ
元まで左支天鐵の元二本先一
寸おもそそりうめ筋ひげ
ちちち　世帯のふうふ
浦戸不同八戸八人いまま
あつく力寸　なり

園花ぜん　つるとと
つる今川
同筋事表長さ円
扇頁列　色うづき
戸おづく　つるちとせ
円　ひまぎ　円△こが
円　こぶの　てこうま
つるうりぎ　円　ここぶ
同筋ちゃ表長さ円
園あげまき　戸かつる
円大ちち　円たき川
円みさか　つるくゃ川
結ぎの　円　ひろえ
戸八へぎり　てこやか
円ときの　円まち山
円　今川

同筋山際にて長さ円
園ちゃとせ　戸ばやま
戸ばばば　つるうらく
同筋ごぼう表長さ円
園うめん　つるうらぐま
戸めせ　円　みつるやま
円　さはぐ　円　うらぐ
つるとやま　てこ　いくよ
元まで左支天鐵の元二本先一
寸おもそそりうめ筋ひげ
ちちち　世帯のふうふ
浦戸不同八戸八人いまま
あつく力寸　なり

同筋一丁目南ぐ八分
河岸長さ十長さ円
つるねざた　てこなる月
円　さとう木　円　さとう
伏見や新左表円
戸ひさし　つる　あやえ
円　ろうん
つるうせん　円　あづま
円のせき　円　うづき
戸ちちのく　つるあづま
円　うらい　円　花つま
円　りうか　円　山のか
つるとやま　円　和ぐ
伏見や表長さ円

同筋一丁目ぐ八分
河岸長さ幅円
戸花ぐず　つる大ちち
つるたうた　円　ちち川
円　あやめ　円　かう山
円　ぐうき　円　うち川
表ちゃ表長さ円
つるうう山　てこうち川
円　つやま　円　つま川
伊賀やうあん円
戸ちちち　つるあやめ
円　ちはち　円　ニ
つる花やま　円　ねやま
伏見や表長さ円

つるかめ屋　同　松ノゼ
同　たかしま　同　山のか
同　ふしぎ屋　同　たぶ

一和屋忠兵衛
つるたけ　つるまち
同　ほやま　同　ほたる
同　ふしぎ　同　ちくん
同　ささき　同　大ぶ
あぐハ二十月

四軒屋三兵衛
つるたぶ
同　ふしの　つる大さき
同　大くま　さこなかえ
同　ふしまる

つるふしぎ屋　てこなさ川
同　ふしま　同　せぜ
同　あづま

くまろ屋さち内
つるうしまる　てこしさ
同　たぶ

つち屋忠兵衛
京たぶ　つるふしま川
つるかもと　同　くしの
同　のひし　同　あぐま
ふりほや右内
つるうつま　てこふしの
同　とうやま　同もがは
同　いはく

杉屋加兵衛
つるのさは　同　八そし皮
同　さぐま　同　ふし米
同　なぐま

あいぐや仁兵衛
京たぶ　つるふしさ
同　たぶせ　同　ちくま
つるとり入　同　ふくま
同　たぶ　同　ふさき

ふるやあめ兵内
京　ふたまま　同　ふくま
同　いぐと　同　ふしの
同　ふしの　同　ふんたま

山崎屋久二兵衛

佐久や小四郎内
京ふくまの　つるとう松
つる花ふくま　てこは山
同　大きく　同　のぐ
くしろや長兵衛
つるやまぐ　てこ大ふし
同大ぶく　同　いくよ
京屋忠兵衛
京ふくよ京　つるあつま
同　やちり　同　ふぐとう
つるいつく　同　ふさき
ゆくく屋ゆうく内
京　ふしさ　つる小伊さ
つるかめ　同　ふちめ
同　すこの　てこていう
伊吉や忠兵衛

田中屋弥兵衛家内

伏見屋新兵衛家内

大和屋庄兵衛家内

伏見屋七郎兵衛家内

伏見屋長右衛門家内

伏見屋長兵衛家内

元ドんあらざ 弐百二十めあるハ
伊勢屋うらあんあんを
つなけりやま てこさかり
てこさく川 同 みちのく
加うあ屋まつ内
つかちくめ 同 さうるさ
同 ひうらぜ 同 いをゝ川
同 ちやげ 同 みやくさ
同 ちゝ川 同 りんど
いかや屋清右衛つ内
つかちくさふ
花田屋平兵衛内
つか大ち
てこめぜ てこさし
つふろうぜ つかふぢがえ
大坂屋半右衛つ内
つかさんご 同 たまの
同 ろやま 同△うりの
車屋左衛つ内
つかみさき 同 ちやま
同 小ごん てこまさ川
同 くるやま 同 まつがえ
元ふあつざ二十めかゞハ
松屋や伝右衛つ内
ゐうらひぢ てこらやま
つかまさ山 同 あやめ
同 ちなく
銭屋半右衛つ内
つかとさ てこまちぜ

たやの元ちり人内
てこうゝ原 同 ちきれ
同 まつえ 同 一のぜう
同 ちりがえ 同 大きれ
のうぜ
ゆや赤ちり人内
てこなまよ 同 ゆとち
同 あやめ
ちやや左右衛つ内
ゐこながと つかこゝだ
同 こひさき 同 ちやま
同 おぐら 同 ちうさ
同 うしの 同 てこやまし
同 あやめ 同 ちぎの
てこうゝ原 同 くあ川
同 たい川
うゝちや源ちり人内
てこハちぎり
ひうまや源ちり人内
てこちきぶ 同 ちり山
やまゝや右衛つ内
てこみやこ 同 うゝさき
すゝうゝや与右衛つ内
てこさうん 同 松山
京屋ゝ右衛つ内
つかうりう 同 ちやこ
同 ひめえ 同 たうを
てこあ屋

そうの右ふひ〜か
永禄やを元年ニ
てこ　ちよまき　同　ふち川
同　やま川　同　まき山
さうひ倉ヶ元年ニ
てこのぞく　同　ふ〜ぼし
同　ふ〜ぼし　同　うちん
同　そめ山　同　ゆだん
てこ　ちよまき
いぢう市兵衛元年ニ
てこ　そば
はや和尚ハ永禄ニ年ニ
同　ふ〜ぼし　同　ちこ
同　ふ〜ぼし　同　ちこ
りちこ　ちよ
りちこ　ちよ
のぶ八年ニ
のぶ八年ニ
ちよ
ちよ
ちよ

山や新兵衛　同　六郎
信濃屋　同　城や
[illegible]

わらこて
同　林新
同　[illegible]山
同　城つぐ
同　[illegible]
同　八十郎
同　城右
同　[illegible]
同　[illegible]

新丁[illegible]のこと町
同　[illegible]
同　仁[illegible]
同　八[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]
同　城民

[illegible]
[illegible]
[illegible]

計師　村上義農
同　桂　伊孝
長濱藩士　村上一正
同　玉置六郎仙
長沢藩孫沢きち
梅辺藩士　林重蔵
うつひ藩士
伊藤重蔵

あさ所　西
同　同
同　同
あちご所
同　同
同　同
同　同
同　同
同　同
同　同

宇佐八幡宮
門司やそよ
宇佐八幡宮
おまあ地蔵
久留米藩
地蔵
宇佐八幡宮
手のやはら
宇佐八幡宮
宇佐八幡宮
ゆひ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ

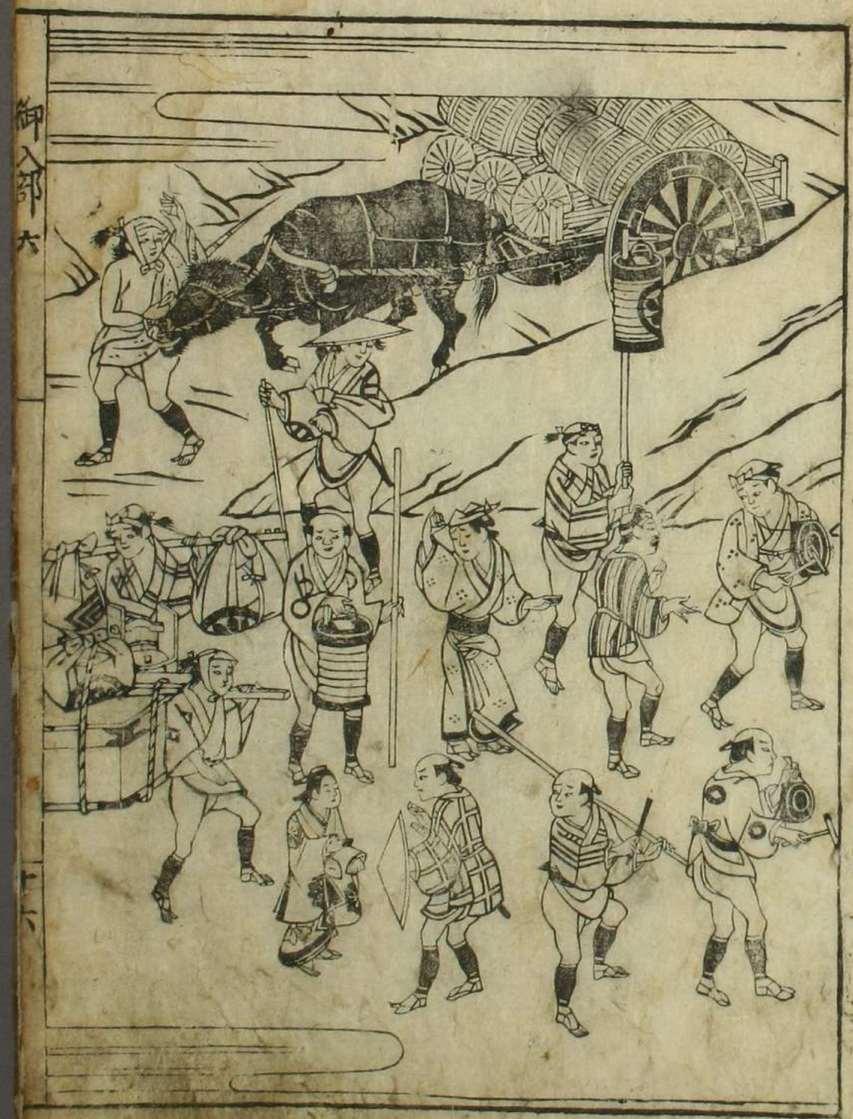
宇佐八幡宮の祭礼に
うつかりべら八幡宮
御ちを南之いるまも物
ちんのうあわれ物のうあんぎ
ちんぎゆ

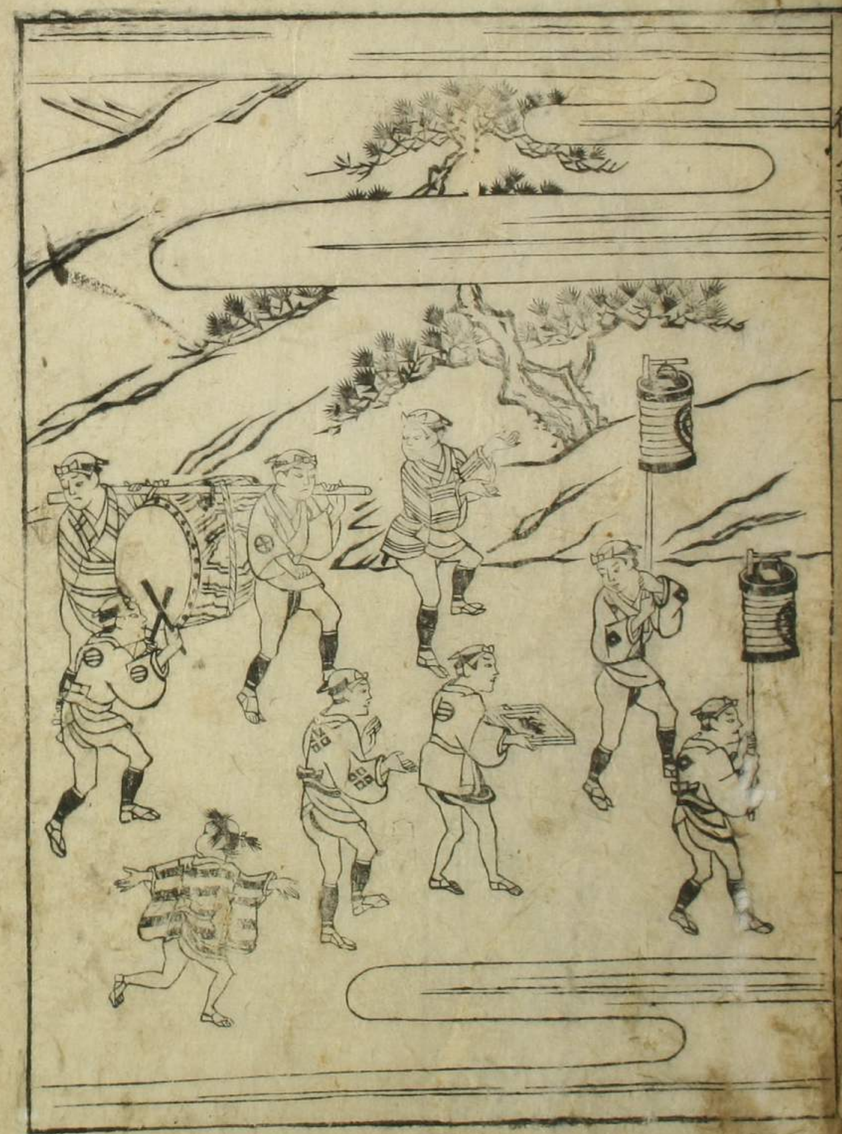
かくかくもの沒年時さんだと二行
めぐりやあるうれ祭ゆひく
宇佐八幡宮の祭礼に
うつかりべら八幡宮
御ちを南之いるまも物
ちんのうあわれ物のうあんぎ
ちんぎゆ

けちりちんとうとうとうどり松梅とはわむひあ元ハむ一所
海原ゆかく雲ハの藤とうとうぞとあい見ゆへうけあち
の素藤南ひの松まとはくてあげうれうち数の所
かの高きの松へあご原しとひまひうちを落しいう義
と行て伊原ゆ宮へまぐるは清行のうたしつあけぐ地
うたれかうたぬ何ハ考へ
ひくくだくくもくくく

はのかりのくーさえぐうこ花御ふ茶ゑ付長吉所忠
若うこうら永田のくくかはふ人ふこまぐおもりひ
宗田書社智鈴十七挺　太吉屋ようこうこうもで文師
月名基ゑおまぐうけ帯たうひ侍久どのもとれくこ侍
牛渡の侍枝ひまつーやもふ奥ふあこれひ茶の
侍れどんくこうすあ侍ふこうこうこおうち赤社十七
人ふあ彩に力侍屋しこ普侍侍ふこうこ侍
ふ宮吉どのうら侍ふなひひ侍う侍久家の
かどりこ年中うこ百姓づく人別ふ侍ふ成しの
侍文とづーたまくーげうこるの業
何れへ出るあもじ八幡れへうくく八幡四郎城吉々

ないく天照太神ぐうく宮殿ふ稚ひ半物祝
うこ世ど先中ふ侍れ系とうこもべーこ侍ひうう
時ふ屋の八つるうう四の侍文と侍りう袋の四れとま
ふの吉ふこうこ吉ふ多物ごーさいう鶴ふ家ふ
ーこ侍る鈴もひけう乳の家浪ふ近方うこうや
ふあどくこ地の川ふ村屋もうこーーりうふこ侍ふ
丁四どここうう力千こうこ侍ふ村ふ侍ふ
侍ふうりこやーうこ二三十人地灯と屋ふ侍ぐくふ
くの太数紙ふうひどせたどひまりる滅太ふと孫極々大
はもうい異力人ふ天杨ふ侍ふ屋ふくの侍合ならんうう
ぬるくくの中ふやりくふうらりこどふ支れどやせ侍の





うどくうそんゆうそどうのふせとらまく城古むりよやうも
をそけた業屋町ゆくうまさまいれ角屋のたれそそ
あれすもなしうりやあれ山月のれそめつくる。瀬踏九大
高屋れ八千どゆりのくなどまと徳ろせ浦ん物ようの新れ
うしたなづく。数えあと二重めそくだこと屋くらうりのある
物屋よてはあひあそ悲人古ゆも浦遠乃とよ多徳浦く
の浦らと半。新ひの海よお源金も牙角屋へ法源しまそ
やゆるあそうくに清踏へつまゆくあひでこのが海八
しうくだのむべーと二重めの法ようそび物まぐ
くうくよかまー後々二金の酒なりうふあげやみく浦を
びの河りうまいるをめひうくれまうせ法ふりうれを

まづうまうれ海しのたく裏乃薮ぐされうとけうせ
何くくやうほかううちゆのさうぐくふ三ちよあま
ど新もうえびうの大長れたなげきたしひそしさ
者無気へうくもお拍ちれ地学屋町ちやそくれを
きらふやうちなうと。ふへめと学二重れ海乳とうせ
らまてのうとほぐ味せ城古ほそしくおりひとり
まづうまうそれおやくおトうせめやうよざうくと
いのほーなひまて高ちは後の女郎前ちまくくの
ぶやに源石やうくもまうくはないといへハ
かれかぶうそれまうーなひちと学屋町の女郎うん
うちはあくくのうゆく三味線ちうちうんくへ

てゐ給まつ給で勤まりまセゐてしたまはれたゞ不野屋
にたゞんとてくいひどてくくるまくくみうやせく

(十三) 万栄くうゝ神楽男

能舞川測ともわゝぬ我ゞ宿と浦ゝくゝ好酒ゆぞを
けるし續一ゞゝむゝ大和ち絶花ゞひとめの侍婆
ゞゝ四帝ゝ住へなり行ぬ親もと魔燈ちて楽絵図叶
まやゝあ住せゝゞゝ細ゝく復なれそめ恵と貴ゞゝ財
ゝあ所分なりゝその中ち裏へて貴ゝは栗へて家を
りてゝも天性神時の利生ゝなひ城ちゝ貝ゝ
家ゝ氣家ゝ者勤ゝ向ゝて法宿夜ゝこあいてゞゝち
ゝくなゝ言葉の入ゝう宿ゝとゞあゞひとゝゝ法法

家ゞひゝくいゞくくにゝとてんせゝて芝肥ゝゝ宿のまん
中ほどにてゞうやゝて前ゝゝひ掘ゝくく一番の宿あけても
くまくくもゝゞは世ゝゝ人ゝ告ゝうの宿ゝさゝとゝゝうゝ
まゝとひゝゝさせあく侍様と掘ゝうへゝゝたゞちなる
行にゝゝまで内より物の禁ゝてゝゝもゞや大津の名義ゞの
ゝゝ海ゝなゝひゝへやゝいく今取ゝ二階ゝ庭ゝゝん
ゞゝゝまゝせゞゝる南相ゝくく機六彩とやゝゝゞけゞけ
の男一人ひゝゝ宮侍ゝ家ゆへ宿ゝくひての住今ゝくゝゝ大
はへゞ人なまゞ八まゝゝまいゝ去ゝゝゝく実に情ゝゝの
あゞひゝ世ゝ戸口に出ゝゝまゝに出ゝゝゝゝゝゝゞれゝゝく
ゝなゝれ海ゝうかひゝゝけ家なのまゞおゝゝひれ

まれ乳をつけたしうるあんまりひとり
ものり給へ。風呂炭もとりあつかひ
まれ風呂もあくなれどあつくぶんぶお湯
乳を付けもあつくどうもつまつくあまだひそる
してちうう所庶なまと奥座敷を年家がなまバひ
うまをあるあるくくを宋次ち寄く江家来所ちやや
いて薬園とう世を真の所紙の拍板のかうげと
うまくくうまをちこ人の下女をうちうさ寄ゆて
だどこあく言やのまびまの二人をすうう教ちうろ
ひお作供来たのむしくひで病ちちゃんあくありくへ
あくを行をちうちう共こ行ちうう肉あくく紙思後ぢみ

一ちゃのあくり切称あくんぶうちう汲物吸はきし水ちよのの
百ちくもとうぢぬ鼾すさ所ちくくうくくちうくくちうくくう
ちうに汲物にあくまだ女こうれうなりと面られ
しやうは幾拍の南風裏にての弱年ちうぶぢうたく
家のんぶくと幾ちたち子女ちうけうちうの風
でうみけるうや元八六十ぬ六ぬもあくくしたの年
うち七年のうちぢやたちあこ百ちうちうい幾んぢ
今三年ぶ所ちうもあらふちまでぢあすの焼拍板子
あくんすまちまんざらのうんでもかー拍ちこうちく書
うちちろいを殺ひちまはりはせんくうちこうどうはる
供りぢち。三十やに十八浪ちとう次ちとあくぐし

笑窪とゆらんへくらをとそくさくてうぢのあさ
なひそまてませいぐくそをけだくぜおいやあうこの病
そけちん。疫あくまつくをうかとつめくい石屋
の如常ちくいちづひまさくさくちぬうくぬ高日信
をしこうをたまうくん。うそくくまうくしそうをくくしそひりぐうあぶ
二十文とうくくまうくしそうをくくしさぐうをとをうまん
くも記ほうやあうんついそうくくしさぐうをとをうまん
こ年織いくしほとをくいでうせそと角内八物いぐそをとうと
猿屋千ほをあ。ぶりのぶかうくもそなどいくくさうびい
まうくくをうぶ性鼻炭くすくくを。ぐう
く源四とうけちくして体むていさくを家おれなの角内

そをとを陸ようしておそかうまとくいこ三十文をくいく附女
むくくおそあぐり紙てあくく男とうくほ源とくく角内
をびうくうくそこあやどうじやくさぐりくうまくく惟
ぶをうを世男ぶ紙ロくうくぶぶんくすまぐば角内ぐあ
さびくこい物をうをそをあぐくむ附女数うけうくん
実をあまくぶけいくをうくくも魚八孫りぐ六十をくくく
ねうあをくをとうくく紙ちを寿四まぐりくいくうり
角内紙ぶうくく家茶の猿ぶくせくいく女ちを後の男
にたくをまくくうせくいくあをくうにくくをづを紙ちう
ぶやくくあをなくやくぶ亭をぶ考くて死ぐくくれた
二階のあくもまを的汗をいをうぐくくい男下茶平の

事はるやうけんあるとせいふとちがふやうれやつこ
は奥へゆげゆるさ世ちそこまれちうせ殘あつひろ
時師ちそ所隅ちうるまばだやあもあけの日公家中
猶久しのへ仏僕ら帰ゆせい大多ひの將蔭殘代今ヨ乃山うさ
紙くゑ歳と信ゆ秋方家れ門松繁ゆ妻女八刑仏殿姫家
何くし夏陣入新れ付宗義方へ立義の正統ふ津ち家中う
うくまちく月お夜陣代りまおまそうひ銀

千時寶永七寅九月中旬

御入部伽羅女春　終

板本　老松長兵衛

アヤキ
壹